

川崎港臨港道路東扇島水江町線橋梁

基礎工事及び東扇島防災センター

見学会報告書

橋梁基礎と防災の学び

2018/09/11

川崎の産業観光を支援する会 事務局 根岸雅明

2018.9.12

川崎臨港道路 東扇島水江町線橋梁工事の見学及び
東扇島防災センターの見学の報告

【概要】2017年9月25日に川崎の産業観光を支援する会（2018年時点の会員数68名）の役員及び工場夜景ナビゲーターの方々及び関係者の19名で上記の見学をさせていただきました。

今回は前回参加された以外の一般の市民の方々に呼びかけをして17名の参加になりました。応募開始後あっという間に満員になりました。それだけ市民の方々には関心があったのだと思います。参加された皆様にはありがとうございました。

国土交通省京浜港湾事務所の関係者の皆様、施工会社の皆様、東扇島防災センターの案内をしていただいた皆様にはお忙しいところ、見学会のお時間を割いていただきありがとうございました。とても有意義な見学会となりました。

以下はその記録です。

【日時】平成30年9月11日（火）14:00～17:00

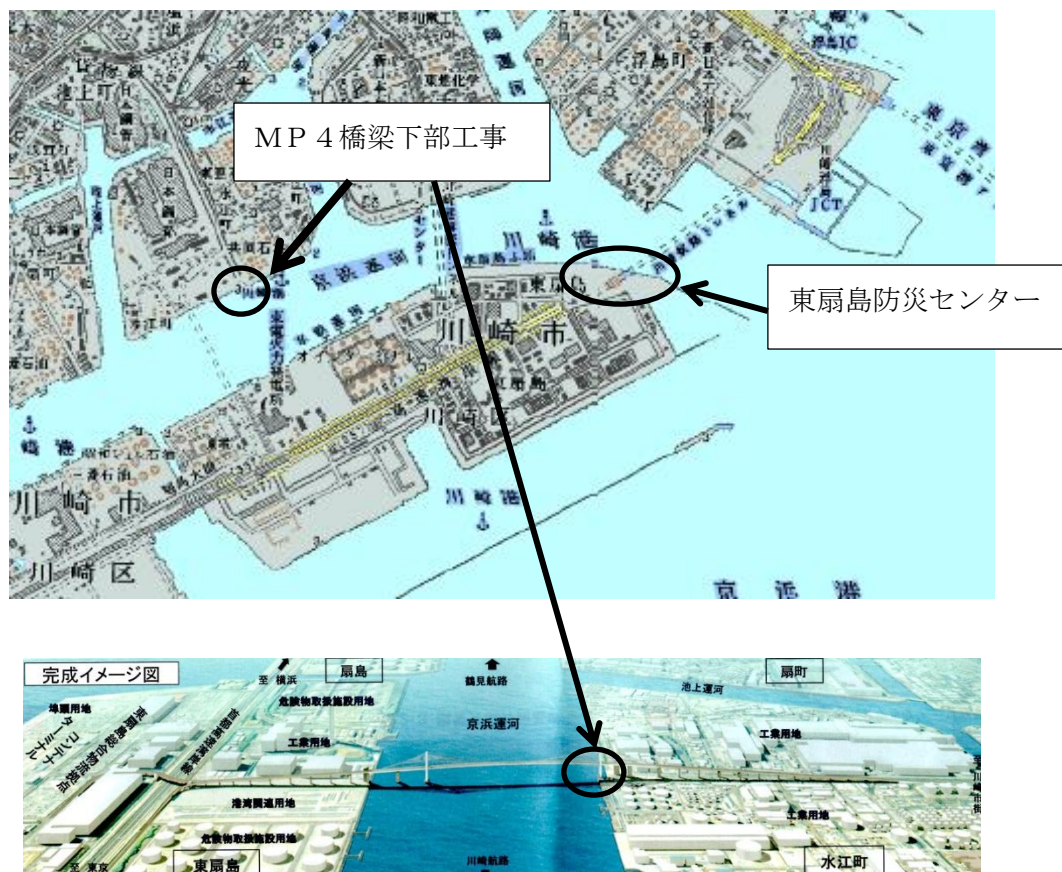
【見学の目的】京浜運河を横断する橋梁工事の基礎工事の現場見学と東扇島防災センターの機能役割等を知る。

【参加者】17人（男性15人、女性2人）

【見学行程】J R川崎駅 14:00～14:20 現場事務所 15:00～15:20 東扇島防災センター 16:20～16:40 J R川崎駅



【コース概要】



橋の完成イメージ図。斜張橋。完成予定は平成 35 年とのこと。説明会資料抜粋より。

【感想】 14時に待ち合わせ場所のJR川崎駅東口のタクシーベイ付近で国土交通省のマイクロバスに乗車。国土交通省の担当者の方より見学の行程概要の説明がありました。シートにはヘルメット及びライフジャケットが事前に用意され現地に到着後、着用する。

現場事務所内で国土交通省の工事の担当者及び施工会社の方から工事の目的、概要、工法等をお聞きする。

東扇島と川崎方の水江町との間は現在1本の海底トンネルで結ばれているが、物流の渋滞などが起きている。また東扇島防災センターからの緊急物資の輸送面での機能の多重化を図るためにこの臨港道路が建設されているとの説明。京浜運河を横断する橋梁構造は斜張橋で羽田港の空域制限で橋梁の柱の高さを100m以下に制限をされている。コスト面でとても厳しい。貨物船の航行の関係で京浜運河の橋脚と橋脚の幅520m、海上高さ47mを確保している構造とのこと。

基礎の支持基盤は-60m以上のところに設置している。

基礎工事であるニューマテックケーソン工法についての説明がありました。この

工法を風呂の湯船のなかで洗面器（桶）を逆さにして沈めていくと沈めていく毎に桶の圧力が増えていく現象を分かりやすく説明をされました。ケーソンの箱はテニスコート2面（18m×20mほど）あるそうです。上部でコンクリートの箱を作りながらに空気を入れながら徐々に下げていく工法だそうです。

橋梁の重さは3,1万トンでスカイツリーの重さは4.1万トンとの比較も説明をされました。ケーソン内部の深い場所での掘削は無人機械で上部の指令室で操作運転して掘削をしているとのこと。

質疑応答ではケーソンの傾きについての質問がありました。現在は1mm程度の誤差だそうです。

事務所内での説明質疑応答後、現場にて説明をお聞きして次の東扇島防災センターに向かう。

防災センターのプレゼンテーションルームで防災センターの組織・機能・役割・訓練状況などの説明をお聞きする。3人体制で1日24時間、365日に災害に備えて常駐している。施設は災害が起きた場合は1日以内で復旧する人・モノの体制を整えている。東日本地震災害、鬼怒川の決壊、熊本地震での緊急物資支援や9月6日の未明に起きた北海道地震では苫小牧に水と食料などを輸送したと説明がありました。防災訓練の模様をビデオで観て施設内を見学する。

施設内では防災ヘリに着陸用ランプ、敷き鉄板の保管、投光器発電機の保管、センターの建物の免震装置などを見学させていただきました。

過去の東日本震災、熊本地震、今回の北海道地震、毎年のように被害が起きている風水害は日本列島に住んでいる我々の宿命だと思います。我々もこの現実を踏まえて災害の心構えや準備をしておかなければいけないとこの見学会を通じて強く思いました。心構えや準備で少しでも減災をしていく必要があると思います。

市民の皆様にもこの施設を見学される意味はとても大きいと思いました。次回の企画ではこの施設をバスで行き大勢の市民に見学してもらえればと思います。

改めてこの見学会を受け入れていただきご説明をしていただきました京浜港湾事務所の皆様、工事関係の皆様、東扇島防災センターの皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【写真】



J R川崎駅東口タクシーベイよりマイクロバスに乗車。



現場事務所に到着後、施工会社の事務所にて工事概要、目的、施工方法などの説明をお聞きする。



ケーソン現場。ケーソン下部で掘削された残土をドラムに入れてマテリアルロックから上げてクレーンでホッパーに入れる。



残土は船で浮島処分場へ運ばれる。



水江町から東扇島を望む。



東扇島防災センターに移動。



施設の担当者より組織・役割・機能・訓練のビデオ等の説明を受ける。



建物の外部より災害が発生した時のヘリポートの着陸位置、支援部隊のベースキャンプの位置、物資の輸送中継地の場所などをお聞きする。



テント倉庫内の敷き鉄板等の保管状況の説明を聞く。施設内の災害は1日以内の復旧で準備している。



臨時駐機スポットの敷き板。36枚で1スポット



航空灯火設備の保管。ヘリが降りられるように明かりで示す。



投光器、発電機の保管状況。



防災センターの免震装置



防災センターの免震装置の状況

【アンケート】なまの声です。

- ・問題なし。但し、もう少し時間的に余裕があれば、と思う。
- ・特別な技術で工事が行われている（地下、高圧）様子が良くわかりました。
- ・全て良かったです。
- ・橋梁工事は井戸掘りの巨大なもので、気圧との闘いが大変なことを感じました。
- ・少々時間不足。
- ・見学先の対応がたいへん良かった。

主催者の感想…今回の見学者は建設工事に関心がありなかなか詳しい方が多いと感じました。シニアといえどもとても活発な市民の方々との印象です。めったにこのような建設現場を見る機会はないと思いましたが、見学者全員の方々には大いに参考になり勉強になり満足いただけたと感じました。また防災センターでは日夜休まず待機常駐されているの方々には感謝ですね。見学者の中には忘年会や新年会もできなくて大変だねと言っていました。

川崎の産業観光を支援する会の事務局
根岸雅明 記